

青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和4年度 第197号 4月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」は青木小学校でも取り組みが行われています。その様子をICT支援員の稲垣先生にお聞きしました。



「GIGAスクール構想」と青木村の状況について

青木小中学校 ICT支援員 稲垣 敦史

1 はじめに

ICT (Information and Communication Technology=情報通信技術) 技術の社会への浸透に伴って、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められる時代となってきました。文部科学省が推進する「GIGA スクール構想」は、こうした社会の変化を受けて小、中、高等学校などの教育現場で、児童生徒ひとりひとりがパソコンやタブレットといった「ICT端末」を活用できるようにするとともに、教師が授業に生かすことによって、「より良い学習づくり」「より良い授業づくり」の助けとなっていくような取り組みである、と理解しています。



なお、「GIGAスクール構想」の「GIGA」とは「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字をとったもので、「全ての児童生徒のための世界につながる革新的な扉」というような意味、とのことです。



本来、「ICT (情報通信技術)」という用語は「コンピュータやインターネットの利用」のみを指しているのではなく、TV番組の利用やプロジェクタ、VTR、音楽CD、カセットテープなど従来から多く活用されてきている、いわゆる「視聴覚機器」のテクノロジーの利用も含まれる、と広義に解釈することもできると思われませんが、「GIGAスクール構想」の話の中で「ICT」という用語は「コンピュータ (タブレット)」と「高速常時接続のインターネット回線」の活用を中心とした、かなり狭い意味で用いられることも多いようです。

ただ、やはり「学習・授業」の中心となるのは児童生徒の主体的な学びや、児童生徒同士、児童生徒と教師との関わりが重要になるのであって、「テクノロジーありき」「せっかく (多額

の費用をかけて)準備したんだから、使ってもらわなくては困る」というのは本末転倒であると考えています。より有効に、有意義に活用できる場面で利用して行くべきテクノロジーだと思っています。

2 「GIGAスクール構想」のポイントとなること

「GIGAスクール構想」を推進していくためには、「ハードウェア環境整備」「ソフトウェア環境の整備」「指導、支援、システム管理体制の充実」の充実が求められるものとされています。これらについて青木小中学校の実状をふまえながら述べていきたいと思っています。

(1) ハードウェア環境整備

ハードウェア整備については、「ハードウェア環境整備」「高速ネットワークへの常時接続」「クラウドの活用」の三点が問題となります。

① 児童生徒が利用できる端末（コンピュータあるいはタブレット）

現在、青木中学校ではひとり1台の端末（クロムブック）に個人用のIDとパスワードを設定し、生徒たちがかなり自由に使用できる体勢をとっています。普段の授業でも「ごく当たり前の文房具」として「Google Classroom」などを使うなど、活用が進んでいます。また、教科学習のみではなく、生徒会活動やアンケートなどでもおおいに利用されてきています。

青木小学校でも端末（サーフェス）は児童数分整備されていますが、やや古くて状態の良くないものもあり、すべてが利用できる状態ではありません。本年度は3年生以上の児童にIDとパスワードを発行し、「Google Classroom」などを活用しての授業が行われるようになってきています。また、低学年では「Just Smile」を使っての自然観察なども行われています。



② 高速ネットワークへの常時接続

小学校、中学校ともに校内の無線通信環境はかなり整備されています。また、本年は村からのお力添えもあって、接続環境がかなり改善されました。使い方によってはアクセスの集中などが原因となって通信障害が発生したり、場所によっては接続が不安定だったりという問題も散見されますが、それほど大きな問題はないと思われます。

また、保護者の皆さんへのアンケート調査の結果から、家庭の90%程度では「インターネットへの接続環境」が整備されているという実態です。数だけを見るとそれほど大きな問題はないようにも見えますが、すべての子どもたちに同質のサービスを提供するという立場から見ると、解決すべき問題は少なくないとも考えられます。

③ クラウドの活用

「クラウド」という言葉も、わかったようなわからないような言葉です。要は、自分のコンピュータにソフトウェア（アプリ）やデータを持たず、外部（雲の上＝クラウド）の大きなシステムが持っている資産を使い、また、そこにデータを預けて運用していくようなシステムを指す言葉です。「Google Classroom」を利用することが前提となるなら、

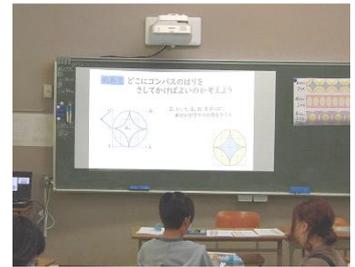
今のところ、クラウドの活用について大きな問題は把握していません。

(2) ソフトウェア環境の整備

① ZoomやMeetの活用



Zoom（ズーム）やMeet（ミート）を利用している、いわゆる「リモート会議」は、現在では当たり前になっています。これらの機能を拡張的に利用することで、「在宅学習における授業配信」などが可能となります。もちろん一方通行ではなく、双方向の授業も行うことができ、現状では「できさえすればいい」という状況は越えて「授業の質をどうするか」ということが問われるようになっていて、すでに実用段階であると言えます。また、今までの「チョーク アンド トーク」の授業では難しかったことを実現していくこともできつつあります。



② デジタル教科書

ほとんどの先生方が多くの時間で利用していると思います。すでに「欠くことができないツール」となっています。

③ 「Google Classroom」の活用

現在、「GIGAスクール構想」の中で話題の中心的位置にあるもののひとつが「Google Classroom」です。「Classroom」は「Jamboard」「Forms」「スプレッドシート」「スライド」「Meet」などとの組み合わせなどで利用できます。小中学校とも、この「Google Classroom」を活用している授業が進められてきています。ただ、「Classroom」そのものはあくまでも「プラットフォーム」であって、これ自体が授業展開を補助してくれるわけではありません。教材づくりや利用方法の研究は教師が行っていくこととなります。教師が「道具」として利用する価値があると思うかどうか、がすべてだと思います。

小学校低学年の児童は、操作のハードルが高いことなどから「Classroom」ではなく「Just Smile」などを多く利用しています。



(3) 指導、支援、システム管理体制の充実

職員の情報機器利用については、人によって温度差があることは当然だと思います。「デジタル教科書」などについては技術的なハードルが低いので、ほとんどの先生が利用している一方、「Google Classroom」の活用などについては個人差が大きくなってしまいがちな面は否めません。使い方を身につけることはなかなか手間がかかり、たいへんですが、校内外での研修会などを通じて、「使った方が有効な場合には積極的に活用していく」という方向で進んでいます。また、「どのような場面で、どのように活用していくことが有効か」というような研究や情報交換がこれからも大切

になってきます。この件に限ったわけではありませんが、活用事例が多くなっていくことで活用の質が向上することは当然のことだと思います。

(4) その他の問題

保護者の皆さんからは、タブレットの利用について、利用時間の長さや利用時間帯のことが問題点として指摘されています。また、「万一破損してしまった場合はどうなるのか」というような心配を耳にします。これからもいろいろな問題や課題が出てくるものとは思いますが、ひとつひとつより良い解決法を探っていくというのが現在の立ち位置ではないかと思えます。

また、もちろん、機器の使い方やネットモラルについての指導は学校でも十分に行うとして、やはり、「ネットいじめ」など、人権に関わるような問題については気がかりな部分ではあります。このことについては「GIGAスクール構想」の中のみではなく、いろいろな場面でしっかりと指導していく必要があることと考えています。



3まとめと今後の方向性について

以上に述べてきたとおり、「GIGAスクール構想」に関して、青木村ではハードウェア面での整備は充実してきていると思えます。また、児童生徒と教師のスキルアップも進んできており、万一のコロナウィルス感染症拡大による休校などへの備えも進んできています。これらの機器やノウハウを、「ごく当たり前の文房具」として活用し、更により良い授業、学校づくりに生かしていくことができるよう取り組んでいきたいと思えます。併せて、ネットモラルの問題や人権をはじめいろいろな権利を尊重することについても指導していく必要がおおいにあると思えます。



～お知らせ～

はつらつネットワーク通信では、本年度より青木中PTAとの協力紙面を進めていく予定があります。

まず手始めに、詳細については後日の案内となりますが、学用品のリサイクルを検討しております。ご自宅にご不用になりました制服、カバンなどありましたら募集の際にご寄付頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。



編)集)後)記)



令和4年度前期はつらつネットワーク参加団体活動計画表を作成いたしました。新型コロナウイルス感染症への対応により、各行事について中止変更の可能性があります。ご参加頂けたらと思えます。詳細は、各団体の代表者または教育委員会(49-2224)へお問い合わせ下さい。